父・森本精人のつぶやき

enちょう

桜の花びらが風に舞う
自然の移ろいの中
一人で散策しました

何百年の昔から
形・姿は変れども
この美しい桜の花を
愛でた人々が
いたことだろうと思います

正しく美しく
清い心でいつも
自然と対峙したいものです

人を利用、
人を迷わす、
人を裏切る行為は
してはならないのです。

「体の傷なら治せるけれど
心の痛みは治せやしない」

美しい自然を愛する心と
大切な人を
愛する心は
失くしたくないものです

最後の卒業式 ―養老牛小学校―

長い年月の中で生まれるたくさんの物語。北海道中標津では83年の物語が幕を閉じました。昨年夏にワークショップさせていただいた養老牛小学校はこの春、閉校しました。みんなで作った映像には83年前の卒業生から、今年卒業したばかりの最後の生徒がうつっています。10人の卒業式。最後の校歌。どうしても巣立つ彼らをみたくて、行ってしまいました。彼らとの出逢いは大きく影響していて、もはや、「人ごとではない」関係なのです。10人の歌がわたしは大好きです。たった10人。されど10人。ひとりひとりの声が大きい。

全身のびてますし、口なんかは、縦に10センチぐらい開いてるんじゃないかと思うぐらい声がでています。どんなに悲しくても、別れがあっても、歌という力はとてつもなく人を前に進めるものだなと感じました。あの環境で大事にひとりひとりが主役に育てられるというのは、素晴らしいことで、うらやましくもあります。全国には、こういった閉校していく学校がたくさんあると思います。学校はなくなっても、こどもたちは育っていきます。ずっと見守っていきたいと思います。

行きたい未来へ

こどもたちは自由に夢を描きます。いつの日から、それは無理、現実的ではないといったことになってしまうのでしょうか。トヨタ自動車には世界80カ国の子どもを対象に夢のクルマを描く「夢のクルマアートコンテスト」という素敵な企画があり、毎年世界中の子たちからたくさんの絵が届きます。TOYOTAとgoen°で一緒に映像をつくりました。「ただしい未来」ではなく「行きたい未来」への制作物の第一弾です。

ハンガリーの女の子は、つねに持ち歩けるパートナーのようなクルマを描き、タイの男の子はおじいちゃんが具合が悪く、ラーメン作りをもっと楽にできるために、おじいちゃんのために描いたクルマ。その子たちの中に流れているであろう音を高木正勝さんが制作してくださいました。映像はアジア全域でCMとしてOAされ、トヨタのYouTubeチャンネルでも公開予定です。ぜひご覧ください！

第4回 伊丹十三賞 受賞!!

先日、伊丹十三賞というのをいただきました。第一回目が糸井重里さん、第二回目がタモリさん、第三回目が内田樹さん。第四回目がわたしという、大変ありがたく、嬉しい気持ちになる賞です。これは伊丹さんが広告をはじめ、映画、執筆、多岐にわたり活動をされていたということもあり、ジャンルを越えて与えていただける賞だそうです。わたしも、やってることがバラバラで、時々、何してるんだろうと思ったりします。でも、共通して、「いっしょうけんめい生きたい」ということだけで、動き回っていたら出会った縁たちです。縁はうまれたら、かたちにします。そうしているうちに、また見た事もないものに出会ってしまい、また感動してしまって、知らぬうちに動いてしまうのです。しばらく、まとまることなく、皆さんと出会って、できることどんどん楽しんでいきたいと思います。

詳細はこちらから"伊丹十三記念館ホームページ。
http://itami-kinenkan.jp/award04.html

大自然／大人間 －極上美の饗宴－

▶4月18日21時～
NHK BSプレミアム
「極上美の饗宴」放送決定！

先日ローマにいってきました。NHK BSプレミアムで毎週水曜放送の「極上美の饗宴」という番組で、世界と日本の超一級の名画・名品の美の秘密を新鮮な視点で解き明かすというコンセプト。「見破れるか？バロック・イリュージョン～ボッツォのだまし絵天井」ということで、教会壁画を見てきました。すべての建築に人間の考えがあり、神をも擬人化して、そのメッセージのなかにも物語があり、不思議な感覚でした。大自然というものにたいして、大人間というものを味わった気分です。3月11日。あれから一年。ローマで教会のミサを受けさせていただきました。ちょうど、皆さんが黙祷している時間。祭壇にある東の窓から光が差し込みました。その光をみて、涙がとまりませんでした。どんなことがあっても、朝日はのぼり、陽がさすという当たり前の素晴らしさ。そこに生かさせてもらってるありがたさで、言葉にもできない衝動でした。ぜひご覧ください。

スカイツリー "Tree Village"

5月に開業を迎える東京スカイツリー。東京スカイツリータウン内に310の店舗が集う商業施設「東京ソラマチ」がオープンします。goen°では各テレビ局のグッズを取り扱う、エンタメショップ"Tree village"のネーミングやロゴデザイン、内装ディレクションなどを担当しました。

GIONGO GITAIGO J"ISHO リニューアル発売！

言葉による説明だけでは伝わりにくい、擬音語・擬態語の意味や微妙なニュアンスをまとめた辞書GIONGO GITAIGO J"ISHO が価格とサイズをリニューアルして好評発売中！
ABC青山店売上2位！

NEW

取材情報 見るポイント

「コデザインノート」3月下旬発売中
「日経ウーマン」4月7日発売中
「TOKYO美術館」発売中

遠方の方へ。そして縁ある方へ贈る、goen°の今月のお知らせ。

みなさま、お久しぶりです。お元気ですか？e°n報も4ヶ月ぶりとなってしまいました。旅がつづいていたからです。この数ヶ月であらゆる縁があるところへバッタのように飛んでました。旅先で絵を描いては、喜んでもらえたり、なんか食べさせてくれたりいいことづくしでした。すこしだけ山下清さんの喜びを想像できます。そして、東京に戻れば、大騒ぎです。台風みたいです。しかもエネルギーチャージされてるものだから、その勢いが増し、スタッフはぐるんぐるんです。そして、また、カバンに最低限のものだけ詰めてすぐに出ちゃうんです。まるで寅さんのようです。

縁は自分から動いたとき、または動いているもの同士でふとしたときに生まれるもの。

今月は誕生月。そして来月はgoe°n6周年。やはり、生まれた時に、はじめて触れる空気や音色は潜在しているのでしょうか。

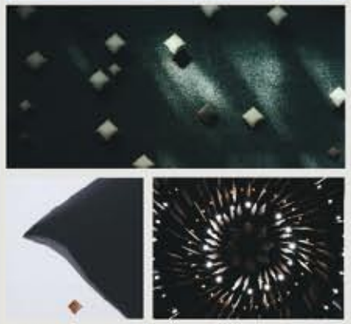
4月から5月にかけて、すべてがあたらしく感じ、新しい行動にも大胆にでてしまうものです。ちょっとづつ成長していきますので

これからも どうぞ、よろしくお願いします。

mono°goe°n制作▶
7mの「イノチの塔」

動物園にぜひ来てください。

街と人が行き交い、みんなの願いがひとつになる空間 シティホールプラザ アオーレ長岡



長岡市では、4月1日に新たな市役所、市民ホールプラザが駅前に誕生しました。隈研吾さんが建築を担当しています。天井は、空とつながっていて、市役所も体育館も、議会室もまるみえです。みんなが行き交う姿がよくみえます。goen°は、その隅々に陶器で鳥を制作し、それをサインとしました。

藤井保さんが、その目でみえたファンタジーを撮影してくださった本や、結婚証明書、出産証明書など多くのスタッフと市で一緒に制作したものが、行き交っております。そして、市民100人からはじまり、それ以上の多くの長岡市民とワークショップを数ヶ月繰り返し、みんなで長岡の映像をつくりました。それぞれが大好きな場所で、大好きな人たちと映像を制作しています。市が中心になったワークショップでできた映像。まさに、行政と市民が、一緒に見たいひとつのカタチです。

ここまでに3年近くはかかってます。時間はかかりますが、こうやって、ひとつづつ言葉だけではなく、ちゃんとシェアできるものとして実在していくというのは素晴らしいことだと思います。

到津の森公園開園10周年記念展を紹介する（左から）梅佳代さん、森本千絵さん、浅田政志さん ―北九州市小倉北区で13日午前、加古信志撮影

◀リーフレット 裏面は園内マップ

到津の森公園きょう10年
ロゴや案内板 リニューアル

北九州市小倉北区の動物園「到津の森公園」は13日、02年の再スタートから丸10年を迎えた。開園10周年に合わせてロゴや園内の案内板などをアートディレクター、森本千絵さんのデザインに一新。この日は、15日から始まる記念事業の展覧会「いとうづのもりがたり」の準備があり、森本さんらが最後の仕上げに当たった。

前身の「到津遊園」は1932年から西鉄が経営していたが、赤字が重なり00年に閉園。存続を求める約26万人の署名を受けて、市が引き継ぐことになり約84億円かけて敷地を購入・整備し、02年に再開した。

市民ボランティアの積極的な取り組みなど「市民が支える動物園」として注目を集め、動物の生態を見せる行動展示で知られる旭山動物園（北海道旭川市）と並び、関係者からは「北の旭川、南の到津」と高い評価を受けている。

「いとうづのもりがたり」は、市民から募集した動物園の思い出を基に、森本さんやイラストレーターの黒田征太郎さん、写真家の梅佳代さん、浅田政志さんが作った作品を展示する。森本さんは「到津は動物だけではなく、植物や花なども含めて、幅広く命をたくさん感じることができる公園」と話した。【佐藤敏一】

▼黒田征太郎さんと森本によるどうぶつ園内の壁面

ひょんな縁から、4年前に、わたしは、この動物園ではじめて個展をして、すべてがはじまりました。ここは、動物を展示している動物園だけではなく、いのちをみて、かんじる公園です。

今回10周年ということで、ロゴからサイン、あらゆるものを一新しました。肉体を通して楽しんで描いたロゴは、「土から人間、木のようなものが生まれていて、動物から昆虫から太陽（前回までのロゴにある「の」）までつながっている」という不思議なものです。

そして、10周年を記念した展覧会が4月15日～8月31日まで開催されます写真家の梅佳代さん、浅田政志さんをお迎えして、この動物園の80年、そして、再生してからの10年のなかにみえるたくさんの人を撮影していただいています。また小倉にゆかりのある黒田征太郎さんとあらゆる場所に絵を描きました。7月中旬には、大きなイベントも企画中ですので、ぜひ、たくさんの「いのち」を見つけに来て下さい。

※すみずみまで見てね